

菜園くらぶ

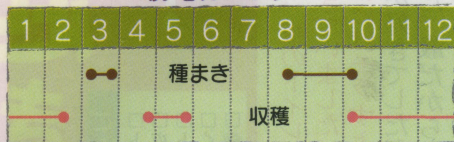
監修/帖地 近行



用意するもの(1㎡当たり)

- 種子 ■ 苦土石灰150g ■ 元肥(完熟堆肥2kg、化成肥料50~80g=2、3握りまたは油かすと鶏ふんを100gずつ)
 - 追肥(1回当たり)化成肥料25~50gまたは鶏ふん70~140g
 - 液肥適量(薄めにする)
 - 敷きわらや枯れ草、白色寒冷紗か不織布
- ※化成肥料は10:10:10のタイプでもいいが、窒素とリン酸の割合の多いものを使うとよい(15:15:10など)

栽培カレンダー



【アブラナ科・日本原産】

寒さに強いので秋まきが作りやすく、鉢やプランターでも簡単に作れ、しゃきしゃきした独特の食感を楽しめます。小株取りから大株取りの中生・晩生種といろいろな品種があるので、組み合わせると長期間収穫できます。



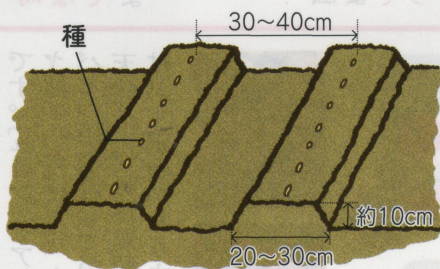
栽培手順

1 種まき

種まきの2週間前までに苦土石灰を全面に散布し、よく耕しておく。

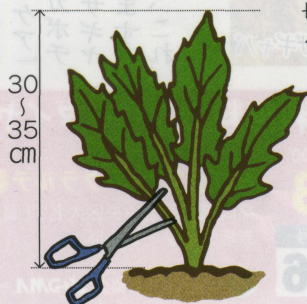
1週間後、元肥を全面にまき、土よくまぜて畝を作る。1週間後、畝に十分灌水した後種を筋まきし厚さ5mmほど土をかぶせて軽く押さえる。

発芽するまで、乾燥させないように注意する。わらや枯れ草、寒冷紗などをかけておく。

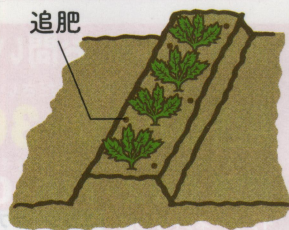


3 収穫

高さが30~35cmになったら収穫する。収穫の1週間ぐらい前から灌水を控え、他の株を傷めないようにはさみを使って株元を切る。



追肥は畝の片側に施し、次回は反対側に施す。霜が降りるようになったら畝にわらや枯れ草を敷く。



2 管理

○本葉1、2枚のころに間引きをし、浅く土寄せして液肥を施す。本葉3、4枚のころと、5、6枚のころにも間引きをし、追肥と土寄せをする。間引きを兼ねて、本葉4、5枚の時にシャベルで丁寧に掘り取り、移植するとよい。間引きと追肥、土寄せを繰り返して株間30cmぐらいにするの大株になる。

※間引きは株が大きくなるにしたがつて周りの株の根を傷めるので、はさみを使ってする。

○乾燥しているときは、水やりを兼ねて液肥を施すとよい。生育初期には特に小

ポイント

- ・害虫予防に白色寒冷紗か不織布でトンネル掛けする。
- ・日当たりと排水の良い場所に植える。排水が悪い場所は高畝にする。
- ・春や秋の長雨時には雨除けトンネルをする。
- ・土を乾燥させない。
- ・軟弱になり、病害が出やすくなるので肥料を使い過ぎない。